

仁愛保育園とのアートプロジェクト実施報告

生活科学学科 生活デザイン専攻 准教授 前田 博子



シール剥がすよの会集合写真

じんあいほいくえんart galleryの提案

2021年7月から新しい仁愛保育園が建設される場所に仮囲いが設営され、白い大きな壁が現れた。外出や移動が制限されている中、交流のあり方を変えたアートプロジェクトを実施した。

本プロジェクトにおけるルールは以下の4つとした。

- ①金銭を介さない
- ②仁愛保育園関係者(3~5歳児対象)のみの参加
- ③土曜、日曜、祝日のみの実施
- ④無人ワークショップ

じんあいほいくえんart galleryの流れ

- ①園児に絵を描いてもらう
- ②下絵データを作成し、カッティングシートに加工(図1)
- ③カッティングシートを仮囲いに貼付け
- ④3歳~5歳の園児宛に招待状を渡す(図2)
- ⑤丸く切ったカラフルなシール、マスキングテープを用

意し、下絵を頼りに自由に貼ってもらう

ワークショップは2021年12月11日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)、2022年1月8日(土)、9日(日)、10日(月)、15日(土)、16日(日)に実施(図3、4、5)

⑥2022年1月21日(金)「シール剥がすよの会」実施(図6)

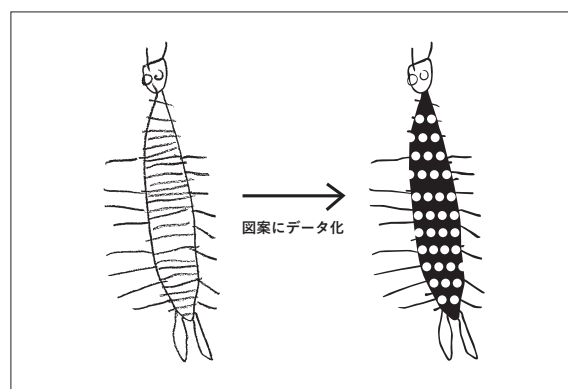


図1 子どもの描いた絵をデータ化したもの

本プロジェクトの成果

園児たちは「おともだち」が描いた下絵を頼りに自身の痕跡を残すことを毎週繰り返していた。先週の痕跡を頼りに別の誰かがそのイラストを解釈し、新たな線や色が足されていく。園児とその家族の主体的な参加によって交換日記のような画面が毎週描かれ、物語の続きが紡ぎ出された。他者の造形や色彩を頼りに間接的な対話の痕跡を残すことができた。

子どもたちがシールやテープを貼ることで彩りが加わり、白い大きな壁だった仮囲いがわたしたちが出会った軌跡を伝える壁に変容した。閉ざされたローカル社会で、子どもたちと社会とをつないだ本プロジェクトは参加者にとってコロナ禍での特別な経験として記憶されるはずである。



図2 招待状



図3 WS開催時の玄関風景



図4 園児がシールを貼る様子



図5 園児がシールを貼った様子



図6 シール剥がすよの会